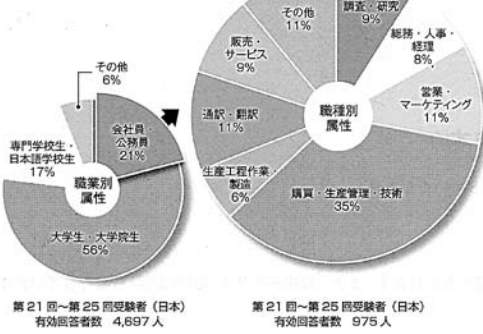
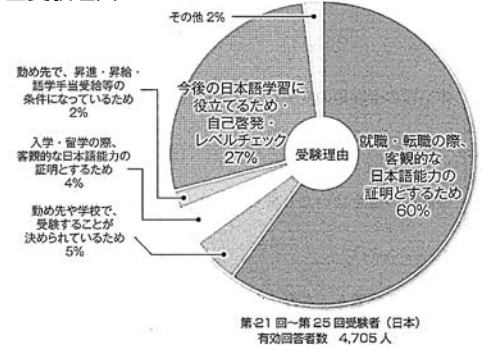


■受験者の属性



■受験理由



以前は、外国人ビジネスマンの受験者が圧倒的でした。しかし、ここ数年、就職氷河期が言われだして一層、キャリアを求めて大学での留学生の受験数が飛躍的に伸びています(上のグラフ)。まずは、「9割が日本人の職場でも円滑に業務を遂行できる」といわれる「J2」を目指してみてください。

検定試験体験記

経営学部4年 紀 薇薇

私は中国から留学しに来てもう5年目となる。日本語に関しての検定試験は3回経験がある。日本語検定試験1,2級を合格し、大学三年生の時に、就職活動に役にたとうと思って、ビジネス日本語(BJT)という試験を受けて、J1というランキングに入った。

まず、日本語検定試験から言うと、それは大学に入ってから、忙しい日々が続いている中では、日本語の勉強時間は日本語学校より短くなると思う。なので、私はおすすめする勉強方法は、もちろん、日々の日本語の勉強は大事であるが、試験の半年前に集中的に文法や単語を勉強したほうが良いと思う。2級の文法は普段よく使うものなので、覚えやすく、生活にも役に立つと思う。しかし、1級の文法は正式なもので、よく論文や書類に使うものなので、固い日本語だと気がするかもしれないが、覚えにくいと思う。そして、自分が覚えたと思っても、何週間たつてから、また忘れてしまうので、常に復習しないとイケない。単語の方では、私は本屋さんで2級と1級の単語の本を買っていたが、毎日20個ぐらいを覚えることが計画したが、実際やってみると、20個では予想よりは大変ではなかった。意外に順調に続けていた。後は聴解の方は、私は特に勉強をしていなかった。なぜなら、普段の生活をしていると、バイトでも、学校でもよく回りの日本人の友達とおしゃべりするから、それは聴解の練習だと思って、あまり本で勉強はしなかったからだ。

次に、ビジネス日本語試験から言うと、それは名前から見ると、もうわかるように、ビジネス場面でよく使う日本語の試験である。この日本語は私たち普段に使う言葉とは違って、敬語は高く要求されている。日本語流暢に話せても、敬語は完璧話せるという自信がある人はほとんどいないと思う。なので、この試験に対しては、CDを聞きながら、間違えるところは暗証することをおすすめしている。

日本語の検定試験は私たちの日本語力をどのくらいのレベルに達成しているのかを示してくれるので、とにかく色々な試験に挑戦しましょう。